

第2回 交通系 IC カードの普及・利便性拡大に向けた検討会

議 事 概 要

日時：平成27年4月17日（金）15：00～18：05

場所：中央合同庁舎3号館11F 特別会議室

【委員からの主なコメント】

(交通系 IC カード導入や片利用の意義)

- ビジネス客や観光客の利便性向上、地方の独自性確保の観点から、IC カードの片利用は望ましい。
- 複雑な運賃精算のない二次交通の片利用なら、導入までのスケジュールはある程度縮めることができるのではないかと。

(交通系 IC カード導入・改修コストについて)

- 検討を前に進めるために、どの程度コストがかかるか方向性を示すことが重要であり、何かしらの例示や一般化ができないかと。
- サーバーや処理端末については、IC カードサービス普及に伴うスケールメリットもありうるのではないかと。
- 二次交通の末端までに導入するのであれば、事業者の自主的な取り組みだけでは限界がある。
- どの部分をスペックダウンするかは難しいが、鉄道でいえば、リーダライターのみの簡易型の導入などは、コストダウンに資するのではないかと。
- 独自サービスへの対応は必要であるが、エリアごとの要望やニーズをとりまとめるなど一定の割り切りも必要である。

(交通系 IC カード導入によるメリットの整理)

- 利用客増やキセル防止、磁気券の廃止など、地方でのメリットを明示できないかと。
- IC カード導入により乗継運賃の利便性が向上し、利用客が増えた例がある。
- IC から得られる OD データを活用して、路線再編を行い成功した事例がある。こうしたデータ活用の成功事例を伝えていくべき。
- 観光施設での利用や身分証など、地域活性化のツールとしても有効である。

(訪日外国人に対する情報発信)

- JNTO の HP の乗車方法等の掲載をより充実させるなど、便利なツールとして交通系 IC カードを知ってもらうことが必要である。
- 交通系 IC カードにより外国人の利用動向を把握し、作成するパンフレットなどへ反映することも大切。

以 上